

平成29年度 学校評価表（最終）

学校教育目標 一歩前へ！果敢に挑戦 一夢を志に一

ミッション 「西中だからこそ」の教育の創造

ビジョン 信頼され誇れる学校

A：達成 B：概ね達成 C：もう少し D：できなかった

海田町立海田西中学校

中期経営目標	短期経営目標	評価項目	評価指標 A:達成 B:概ね達成 C:もう少し D:できなかった	目標達成のための具体的方策	評価結果	自己評価		
						評価点	成果○と課題▲	
確かな学力の育成	夢を志にする力の育成	各種学力調査で県平均を超えることができる。 ※3年:全国学力・学習状況調査【国AB数AB】 2年:「基礎・基本」定着状況調査【国数理英】 1年:CRT(標準学力検査) 【国社数理英】とする。	A:全教科 B:80%以上(11教科以上) C:60%以上(8教科以上) D:60%未満(7教科以下)	・全教職員で本校の課題を共有化し、個に寄り添った学習支援をするために、「学習定着週間」や長期休業中の補充学習を行う。 ・各種テストにおいて、生徒実態を把握し、PDCAを行い授業改善につなげる。	3年 全国学力・学習状況調査 国語A(+5) 国語B(+6) 数学A(+16) 数学B(+12) 2年 「基礎・基本」定着状況調査 国語(+11.2) 数学(+16.8) 理科(+15.5) 英語(+16.8) CRT(標準学力検査) 1年 国語(+5.3) 社会(+2.0) 数学(+11.0) 理科(+5.3) 英語(+11.8) 2年 国語(+5.5) 社会(+5.0) 数学(+17.4) 理科(+0.5) 英語(+16.7)	中間 A	○全教職員による「学力定着習慣」などの取組により、全国学力・学習状況調査は国語・数学ともA・B両方も県平均を+5ポイント以上、【基礎基本】定着常用調査は4教科とも県平均を+10ポイント以上超えることができた。	・学習の苦手な生徒も「学習定着習慣」などの取組により、最後まであきらめずに問題に取り組めるようになってきており、引き続き積極的に学習に取り組んで行けるような環境を作っている。
		家庭学習ノートを3教科やり切らせることができる。	A:90%以上 B:80%以上 C:60%以上 D:60%未満	・自己の課題を意識させ、今必要な学習を自主的にできるように指導する。 ・1日1頁を毎日確認することで習慣化を図る。 ・全校の目標にすることで、生徒自らが声を掛け合い努力できる取組にする。	1年 2年 3年 95.9 87.7 97.4	最終 B	○CRT(標準学力調査)は、1・2年生とも5教科中4教科が全国平均を超えており、特に2年生の数学と英語は15ポイント以上上回った。 ▲1年生の社会と2年生の理科がわずかに全国平均を下回った。	・引き続き、個に寄り添った学習支援をするために全教職員による「学力定着週間」をバランスよく全学年に振り分け、学力のレベルアップを図っていく。 ・テストの結果を細やかに分析し、授業改善につなげていく。
	学力で一歩前へ果敢に挑戦	中学校区研究統一成果指標 ①授業では、「解決しようとする課題について「たぶんこうではないか」「こうすればできるのではないかな」と予想している。②授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手にわかりやすく伝わるように発表をくふうしています。と答える生徒の割合が県平均を上回る。	A:5ポイント以上 B:1ポイント以上～5ポイント未満 C:県平均 D:上回ることができなかった	・西中授業システムをベースに課題の発見と解決を目指した授業づくりを行う。 ・ICT活用で目的意識を明確にし意欲を高めグループワーク(GW)を効果的に取り入れる。 ・校内研修会を行い、すべての教員が授業改善の視点に基づいた単元開発を行う。 ・中学校区の合同研修会で小学校との連携を深め、系統的な学びができるような研究を行う。	県平均 1年 2年 3年 74.3 ①97.2(+22.9) 88.9(+14.6) 98.6(+24.3) 59.4 ②75.0(+15.6) 79.4(+20.0) 89.2(+29.8)	中間 A	○全学年県平均を超えている。自分の考えを、資料などを指し示しながら、理由とともに説明しようとする姿勢が見られる。 ▲自分の考えに自信が持てないことから、発言をしない生徒も見受けられる。	・課題発見・解決学習の単元開発を通し、生徒が本時の「見通し」を持った上で考えを深めることで、主体的な学びにつなげる。 ・少人数で意見を交流するなど、協働的に学ぶ場面を効果的に設定し学びを深める。
	○授業力の向上	生徒が主体的に学習し、西中検定に合格できるようにする。	A:90%以上 B:80%以上 C:60%以上 D:60%未満	・HR学習や家庭学習ノートとリンクさせ、意欲をもってできる取組にする。 ・問題の精選をおこない、目標をもてる検定にする。	2学期末調査 県平均 1年 2年 3年 ①74.3 94.1(+19.8) 95.2(+20.9) 95.9(+21.6) ② 59.4 72.1(+12.7) 79.0(+19.6) 89.0(+29.6)	最終 A	○全学年ともどちらの指標とも県平均を大きく上回っている。各教科とも、主体的に学習する姿勢が定着してきている。 ▲指標①の評価に比べて、指標②の肯定的評価の割合がどの学年とも低い。	・指標②の結果より、学習してきた内容をアウトプットする活動が、まだまだ不十分であると考えられる。自分の考えや意見をまわりに説明する経験を数多くさせ、それについて肯定的評価を加えて、自信を持たせていく必要がある。
豊かな心の育成	○生徒会活動の活性化	委員会活動の取組に積極的に協力、参加したとする生徒を80%以上にする(生徒指導部作成の生活実態調査による)	A:80%以上 B:70%～80%未満 C:60%～70%未満 D:60%未満	・委員会活動の取組が生徒一人一人のものとなるよう、各委員会は取組の進捗状況並びに成果と課題を明らかにさせていくとともに、地域・保護者へ発信する広報活動をさらに推進していく。 ・委員会の取組に則り優れた学級、生徒へは積極的に全体の場で肯定的評価を行う。	○肯定的評価173(85.6%) 否定的評価29(14.4%)	中間 A	○肯定的評価は、1年80.8%、2年91.7%、3年85.1%と中堅リーダーとして2年生の意欲が高い。 ▲「大いに参加、協力できた」とする生徒は、1年29%、2年32%、3年36%と学年があがるにつれてその割合も増えるが、全体では32.7%にとどまっており、この段階の生徒へ引き上げる事が課題である。	・それぞれの委員会の活動が常時全体に見えるよう月ごとの予定表を示す等工夫を行う。 ・各HRで、個人として、クラスとして、取組にどのように関わるかを話し合わせる機会を随時設ける。
		生徒の自尊感情を高める肯定的な回答を全校で80%以上にする(QUアンケート「みんなのためになることを自分で見つけ実行している」項目)	A:80%以上 B:70%～80%未満 C:60%～70%未満 D:60%未満	・あらゆる教育活動において、生徒がポジティブに自己を捉えるよう、タイミングの良い肯定的評価を学校、保護者、地域が一体となって行う。 ・体験活動の意義を説明し、生徒に意欲を持たせる。	○肯定的評価182(84.7%) 否定的評価33(15.3%)	中間 A	○ボランティアによる校内清掃、挨拶推進運動、仲間がいよいよ探しを通して、生徒間で認め合う活動や場面を多く設定したことで、生徒は自己有用感を味わい、自尊感情の高まりに繋がっている。 ▲肯定的評価を行った生徒には、言動に楽観的傾向が強く見受けられる生徒もいる。	・レジリエンスを鍛えるべく、事象と自己との関わりを十分に考えさせる活動を仕組むとともに、指導者側の指導方法や行動統一を積極的な情報共有の中で図っていく。 ・生徒自身による掲示や通信等を活用し、主体的に活動する生徒の様子や実態を知らせる活動をさらに増やしていく。 ・心の元気全町展開プロジェクト事業における子ども会議、清掃活動や植栽活動、挨拶運動の小中連携を通して、中学生としての自信や誇りを持たせるとともに、活動成果等のアピールを校内はもとより地域・保護者に行っていく。
	無言掃除ができたという生徒を100%にする(生徒指導部作成の生活実態調査による)	A:100% B:90%～100%未満 C:70%～90%未満 D:70%未満	・無言掃除の意義を理解させ、海田西中独自の文化として位置づくよう意欲を喚起していく。	○肯定的評価198(96.6%) 否定的評価7(3.4%)	最終 B	○年度当初の全校集会において、掃除の仕方に関する話が意欲づけとなり、毎回掃除開始時の美化委員長の校内放送による呼びかけで習慣化されていた。 ▲習慣化した一方で、無言掃除の意義や必要性について意識しなくなってきた。	・委員会活動を活用し、継続した無言掃除への取組を行う。その中で、なぜ無言掃除なのかを考えさせていく。	
	○道徳的実践力の向上	無言掃除ができたという生徒を100%にする(生徒指導部作成の生活実態調査による)	A:100% B:90%～100%未満 C:70%～90%未満 D:70%未満	・委員会主導による取組が生徒間に一体感を生み、一定の成果を生んでいる。特に美化委員長の校内放送は、生徒にとって毎回の行動が具体的に理解されるため、効果的であった。 ▲掃除終了からSHR開始までの時間の使い方の指示が徹底していない。	○肯定的評価200(97.1%) 否定的評価6(2.9%)	最終 B	○委員会主導による取組が生徒間に一体感を生み、一定の成果を生んでいる。特に美化委員長の校内放送は、生徒にとって毎回の行動が具体的に理解されるため、効果的であった。 ▲掃除終了からSHR開始までの時間の使い方の指示が徹底していない。	・引き続き委員会主導の取組の中で無言掃除を定着していくとともに、100%達成可能な取組であることを生徒に伝えていく。 ・無言掃除に対し「たいたいできている」とする28.1%の生徒をより習慣化させ「いつも」と回答できるようにすることで、無言掃除を常態化させ、否定的評価の生徒を肯定的評価へと引き上げる。
健やかな体の育成	たくましい体で一歩前へ果敢に挑戦	3点固定ができているという生徒を80%以上にする(生徒指導部作成の生活実態調査による)	A:80%以上 B:70%～80%未満 C:60%～70%未満 D:60%未満	・日々、生活ノートを利用して3点固定の指導を行う。 ・保護者との連携を密にする。 ・保健だよりで基本的生活習慣について啓発する。	○3点固定 起床時刻・就寝時刻・学習開始時刻－肯定的評価99(48.1%) 否定的評価107(51.9%)	中間 D	○起床時刻に関しては、94.6%の生徒が決めた時刻に起きることができており、朝食、遅刻する生徒はほとんどない。 ▲3点固定全てができている生徒は半数以下である。勉強開始時刻が一定していると回答する生徒は62.3%、それに伴って就寝時刻が定まっているとする生徒は67.3%にとどまっている。	・面接において、学習開始時刻と就寝時刻を個別に確認してやり、日々の生活ノートを活用し、随時指導・助言していく。
		う歯の治療率を80%以上にする(受診結果票による)	A:80%以上 B:70%～80%未満 C:60%～70%未満 D:60%未満	・学校歯科医の歯科保健指導を受け、う歯を予防するための食生活について知り、改善することができるようにする。 ・長期休業前に未受診の生徒を対象とした個別指導を行い、長期休業終了後に受診状況について確認し再度受診勧告を行う。	○う歯治療率 9月1日現在 62.9%	中間 C	○夏休みに個別指導をしたことにより、治療率が昨年度末の37.5%と比較する上上がった。 ▲罹患率は12.5%(27/216人)で昨年度の11.5%(24人/216人)を上回っている。保護者に直接連絡したにも関わらず、治療に行くことができていない。	・学校歯科医の歯科保健指導の中で、う歯が体によらず悪影響について講話をしていただく。 ・個別指導を継続していく。
	○基本的な生活習慣の確立	体力テストで、体力項目の80%以上、全国・県平均を上回る項目がある。	A:80%以上(48項目中) B:70%以上80%未満 C:60%以上70%未満 D:60%未満	・各自目標値を持って取り組ませる。 ・弱点補強を授業とリンクさせる。	○体力合計点を含む全学年54項目中48項目で全国・県平均を上回る-88.9%(27年度全国・28年度県データ比較)達成 修正-81.25%達成(28年度全国・29年度県データ比較)	最終 B	○中間評価より1.5%上がった。 ▲受診勧告を再度行が、受診することができていない。	・来年度計画において、学校歯科医による歯科保健指導を各教室で行う予定にしている。生徒自身が自分の歯を守ることの大切さや、健康を維持するために「行うべきこと」を考えられるよう指導を行う。
	○体力の向上	○情報の受信・発信の充実	A:すべての学年が昨年度以上 B:一部の学年が昨年度以上、どの学年も昨年度未満はなし C:昨年度と同じ(90%) D:昨年度を上回るることができなかった	・何をやったかだけでなく生徒の変容した姿を示す。 ・外部の方に学校の取組ややりきる生徒、関わりきる教職員の姿を実際に見ていただく機会をふやす。	1年 88.6% 2年 94.9% (96.0%) ↓ 3年 94.1% (87.2%) ↑ 合計 93.4% (90.1%) ↑ ※各学年は経年比	中間 A	○県・全国・学校平均や昨年度の個人記録等、目標となる数値を示したこと、また、教科学習の中でそれぞれの体力要素を高める方法を考えさせ実践させたことで意欲的に取り組めた。 ▲本年度、体力合計点における体力テストのD判定は7.2%(昨年度4%)と、体力づくり推進計画における目標5%以下が達成されていない。	・生徒一人一人の課題となる体力項目について、保健体育の教科の中で確認させ、改善に向けた取組を行わせるとともに、掲示等を利用して、体力づくりに向けた取組例や関わる資料を積極的に示していく。 ・文化系部員や3年生の運動部を引退した生徒に対しては、極端に運動不足に陥らぬよう、また運動不足によるストレスを招かぬよう心がけて生活の中に運動を位置づける指導を行う。
詩情を校に	生徒、保護者、地域が誇れる西中に	海田町学校教育意識調査の「子どもの学校の現状について」の満足度が昨年度を上回る。	A:すべての学年が昨年度以上 B:一部の学年が昨年度以上、どの学年も昨年度未満はなし C:昨年度と同じ(90%) D:昨年度を上回るることができなかった	・何をやったかだけでなく生徒の変容した姿を示す。 ・外部の方に学校の取組ややりきる生徒、関わりきる教職員の姿を実際に見ていただく機会をふやす。	1年 88.6% 2年 94.9% (96.0%) ↓ 3年 94.1% (87.2%) ↑ 合計 93.4% (90.1%) ↑ ※各学年は経年比	中間 C	○情報発信ツールの1つであるHPに、体育祭での生徒の活躍する姿を動画で見られるようにアップするなどより細やかな情報発信をすることができ全体では昨年を上回ることができた。 ▲全体での肯定的評価は上がっているが、「大変満足である」と答えた保護者の割合が4割弱である。	・生徒が、果敢に挑戦する姿を実際に見ていただいたり、HPで発信したりすることで、生徒の成長を知ってもらい、結果で説明していく。 ・本校に関心を持っていただく機会をより多くつくっていく。